HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

林原美術館 NEWS

Vol. 13

平成19年 春号

『林原美術館紀要・年報』発刊について

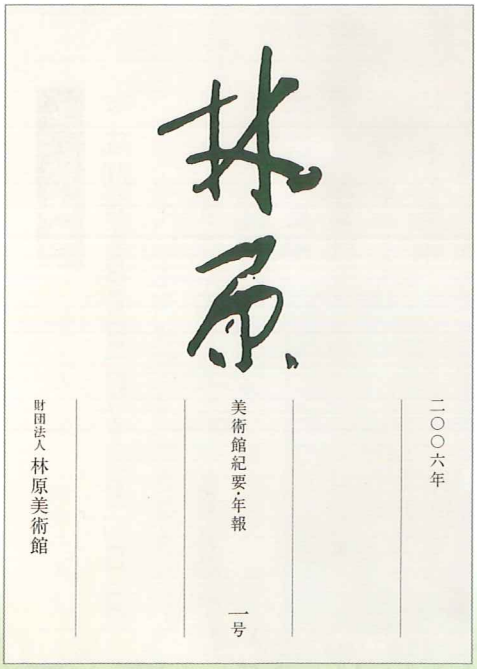
(財)林原美術館 館長 熊倉功夫

美術館の仕事は、まず第一によい展覧会を開くことにあるのはいうまでもありません。よい展覧会を開くには、どのようなテーマで、どんな作品を選んで、どのように陳列するか、学芸員が普段から構想を暖めておく必要があります。とくに林原美術館のように収蔵品のジャンルが多岐にわたり、点数も多い館では、まず所蔵品の研究が必須です。つまり学芸の仕事としては展示と研究という二つの側面があります。もちろん展示にはあわせて広報とか教育という社会的活動も含まれますし、研究には保存、管理、修復といった実務的な研究と作業が付随します。

しかし学芸として最も心を注ぐべきことは一つ一つの美術品が、誰がいつ、どのように作ったか、さらに作られた社会、文化的背景にはどのようなことがあったか、をきちんと研究することです。そのことを通じてその美術品がいかに鑑賞され用いられ、どのように機能したか、あるいは経済的背景についても明らかにされるでしょう。それはなかなか根気のいる仕事ですが、学芸員にとって楽しい仕事です。こうした研究によって、館蔵品のもつ価値が再認識され、美術館を訪れる人びとにより豊かな深い情報をお伝えできる事になるのです。

平成十八年度から学芸の研究成果を発表する場として『林原美術館紀要・年報』を創刊しました。常日頃の学芸員の研究内容を発表し広く知っていただこうという企画です。第一年度は小生の他三人の学芸員が論考を寄せてA四版、口絵四ページ、本文約八十ページの創刊号が刊行されるに至りました。私は平成十七年度の茶の湯道具展の際に展示した千宗旦の二点の資料を紹介しつつ、千宗旦という茶人の逸話を中心に近世初期の茶の湯について書きました。実は今年が宗旦の三五〇年遠忌の年に当り、各方面で宗旦論がいろいろ論じられる折の材料になればよい、という思惑もあって執筆しました。学芸の諸君も能装束の復元的研究、新史料の発見を伴う明治期の金工作品の研究、近年盛んな絵画の社会性をふまえた行列図の研究を寄せました。まだまだ未熟なところが多くありますが、皆様のご支援をいただいて面白く、ためになる研究誌に育ててまいりたいと思います。

また年報として、館の活動内容が一覧できるページを作りました。近年は事業もいろいろ展開し庶務課も一生懸命事業の推進にあたっておりますので、その面もご支援いただきたく存じます。是非、ご来館の折に紀要をお手にとって下さいますようお願いいたします。



『林原美術館紀要・年報』一号

展覧会ご案内

一、企画展「描かれた女性像」

4月6日(金)～5月31日(木)

江戸時代の武家の肖像画や浮世絵の美人画をはじめ、上村松園や池田輝方といった近代の日本画まで、女性が描かれた絵画を展示します。描かれ方は時代や作者によって特徴が異なりますが、それぞれの作品に描かれた女性像の豊かさを楽しんでいただきます。

池田輝方　燈籠流し図屏風（部分）

二、企画展「色絵磁器の粋（すい）―色鍋島の世界―」

6月7日(木)～8月5日(日)

色鍋島は、佐賀鍋島藩の藩窯において将軍家への献上品として焼造されました。その美しさと技術は色絵磁器の最高峰とも評されます。また同じ有田において、民窯では柿右衛門や古伊万里なども発展しました。本展は当館所蔵陶磁器の中から優れた色鍋島と柿右衛門、古伊万里をご紹介する展覧会です。

色絵蜀江文五寸皿鍋島焼

三、企画展「うるしの華」

8月18日(土)～10月14日(日)

漆工芸品は中国及び日本において華ひらきました。彫漆は元代に技術が確立し、螺鈿もまた元・明代に流行します。日本においては蒔絵という独特の技法で漆の世界が極致に達しました。本展ではこれら中国・日本工芸品の代表ともいえる漆工芸をご紹介します。

楼閣人物紅花緑葉食籠

四、企画展「池田綱政」

10月20日(土)～12月24日(月)

岡山藩第二代藩主の池田綱政は、とかく父光政と比較されがちですが、新田開発をはじめ、曹源寺の創建・閑谷学校の改築・後楽園の築庭などを行い、藩政・文化事業の両面で活躍しました。当館所蔵の資料から綱政の生涯を振り返り、彼の実像に迫ります。

白綾包桶側六枚胴具足（池田綱政所用）

五、企画展「能装束―幽玄の美―」

平成20年1月6日(日)～2月11日(月)

江戸時代に能が武家の式楽となるとともに、能装束は形式を整えていき、また豪華絢爛な染織品の代表になっていきます。本展は能装束の美に触れていただくとともに、その染織技法にも注目します。

能装束　網代に撫子文縫入り摺箔

六、特別展「一文字展（仮）」

平成20年2月23日(土)～3月30日(日)

今年度唯一の特別展は、徳川美術館、佐野美術館、大倉集古館、林原美術館の四館合同企画での刀剣展です。後鳥羽院御番鍛冶十二名中六名を占めるなど、朝廷の庇護を受け華開いた絢爛豪華な一文字派の、鎌倉初期から末期までの代表作を系統的に紹介します。当館所蔵の国宝の「太刀　銘　吉房」も出品予定です。

「太刀　銘　吉房」

講演会・行事ご案内

今年は例年以上に様々な講演会や行事を企画しています。展覧会だけではなく、イベントを通じて、美術・工芸品や歴史、文化に楽しく親しんでいただければと思います。なお詳細につきましてはお問合せくださいませ。

林原美術館 お花見・お月見・お茶会のご案内

毎年ご好評頂いています、林原美術館内で開催するお花見・お月見・お茶会のご案内です。当美術館ならではの雰囲気と各種の催し、講話をお楽しみください。

① お花見会「お花見と館長熊倉功夫による講話」

ルネサンス「京いち」のお弁当を楽しみながら桜を愛で、館長熊倉功夫の講話で春を満喫していただきます。

日　時　平成19年4月5日(木)・6日(金)
場　所　林原美術館内
講　師　熊倉功夫(当館館長)
定　員　70名(要予約)
参加費　友の会会員　4、200円　一般　4、700円

② 秋のお月見と音楽鑑賞「十五夜と中国音楽の夕べ」

天文台館長(予定)による月のお話と、グループ風雅による中国音楽の夕べをお楽しみ下さい。

日　時　平成19年9月23日(日)・24日(祝・月)
場　所　林原美術館内
定　員　100名(要予約)
参加費　友の会会員　3、000円　一般　3、500円

③ 秋のお茶会「林原美術館竹明庵茶会」

恒例となりましたお茶会です。亭主を熊倉功夫館長が務め、お水屋を数田宗枝先生が担当いたします。

日　時　平成19年11月10日(土)・11日(日)
場　所　林原美術館　竹明庵
定　員　120名(要予約)
参加費　友の会会員　1、500円　一般　1、800円

第七回 美術館周遊の旅「大和路美術館を巡る旅」

今回は古都奈良を訪れる旅です。奈良時代の古寺である法隆寺、奈良国立博物館、奈良出身で民芸運動にも尽力した名陶工富本憲吉記念館などを訪れる予定です。日本のいにしえの歴史と美術にふれる旅をお楽しみいただきます。

日　時　平成19年6月3日(日)
定　員　35名(要予約)
参加費　友の会会員　10、000円
　　一　般　11、000円

ワークショップ

「体験しながら日本の文化や美術・工芸に親しもう！」との考えから、本年度も様々なワークショップを企画しております。ワークショップを通じて、「身近な風呂敷を使ってみよう！」「やきものってこういうふうに作るんだ!?」「小刀作りや銘切りを通して備前刀の世界に触れてみよう！」などなど「作る」喜びや「知る」喜びを体験したいと思います。

① 風呂敷の活用「風呂敷のオモシロ活用」

当館の新作風呂敷を使い、風呂敷が大好きになる活用講座を開催いたします。

日　時　平成19年5月6日(日)
講　師　ふろしき研究会代表　森田知都子氏
場　所　林原美術館ロビー
定　員　60名(要予約)
参加費　友の会会員　3、000円
　　一　般　3、500円

② 陶芸教室「親子陶芸教室」

夏休みに親子揃って土に触れていただく、楽しい作陶教室を開きます。

日　時　平成19年7月28日(土)・29日(日)
講　師　備前志野焼作家　藤原敬介氏
場　所　林原美術館ロビー
定　員　20組(要予約)
参加費　一組(2人)　4、000円

③ 刀剣教室「銘切り」

大野義光刀匠より刀剣制作行程の説明を受けた後、実際に「銘切り」の体験をします。銘を入れた文鎮(一人一本)をお持ち帰りいただけます。

日　時　平成19年11月24日(土)(予定)
講　師　大野義光刀匠
場　所　㈱林原　桑野刀剣鍛錬道場
定　員　小学生高学年～中学生と保護者の方対象　20名(要予約)
参加費　無料

④ 刀剣教室「小刀製作」

実際に小刀作りに挑戦します。また実費(1万円程度)にて、研ぎ・鞘付きで後日お渡しすることも出来ます。

日　時　平成20年3月8日(土)・9日(日)
講　師　大野義光刀匠・高野行光刀匠
場　所　㈱林原　桑野刀剣鍛錬道場
定　員　大人対象　10名(要予約)
参加費　20、000円

講演会・行事ご案内

特別講演会

林原美術館の企画展にちなんで、各研究の第一線でご活躍の方々を講師としてお迎えして特別講演会を開催します。

場所・定員・参加費はいずれも

場　所　岡山県立図書館　2階　多目的ホール

定　員　100名（要予約）

参加費　友の会会員　1、000円

一　般　1、200円　です。

① 春の講演会

日　時　平成19年4月28日(土)　13時30分～15時

演　題　「美人コンテストの変遷と　描かれた女性像」

講　師　佐伯順子氏

（同志社大学　社会学部メディア学科教授）

② 夏の講演会

日　時　平成19年6月23日(土)　13時30分～15時

演　題　「色絵磁器について」（仮題）

講　師　鈴田由紀夫氏

（九州陶磁文化館　学芸課長）

③ 秋の講演会

日　時　平成19年10月27日(土)　13時30分～15時

演　題　「池田綱政について」（仮題）

講　師　神原邦夫氏（文化史家）

④ 冬の講演会

日　時　平成20年1月19日(土)　13時30分～15時

演　題　「能装束の美」（仮題）

講　師　切畑　健氏

（大手前大学　人文科学部メディア・芸術学科教授）

第四十回 林原美術館美術講座

「館蔵品とその研究 ―千宗旦の茶の湯 その他―」

今回の美術講座では、館長熊倉以下当館学芸員が収蔵品についてお話します。この度『林原美術館紀要・年報』を創刊し、当館所蔵品についての調査・研究を発表しました。ここでの成果をスライドなどを交え分かりやすくお話します。美術工芸品の見方など、一層詳しいことがらが分かります。

日　時　7月14日（土）　13時30分～15時

講　師　熊倉功夫（当館館長）他当館学芸員

場　所　岡山県立図書館　2階　多目的ホール

定　員　100名（要予約）

参加費　友の会会員　1、000円

一　般　1、200円

お知らせ

お茶室「竹明庵」ご利用受付開始

当館の中庭にある茶室「竹明庵」を広く活用していただくために、お貸し出しすることになりました。グループでのお茶会などでご利用くださいませ。手続き等詳しくは当館「茶室貸出係」までお問い合わせください。

使用料（一日）

20、000円

茶室 竹明庵

小中学生料金改正のお知らせ

平成19年4月から小中学生料金が無料になります。また付き添いの方は二割引です。岡山の歴史や美術について学ぶ場所としてどうぞ林原美術館をご利用下さい。

●「友の会」募集のご案内●

当館では友の会会員を募集しています。各展覧会の入場料金が、企画展は無料・特別展は割引（会員及び同伴者一名）となります。展覧会の案内状・「林原美術館ニュース」（年2回発行）・その他イベント情報などを随時ご案内いたします。友の会会員優先や限定のイベント、割引もございます。ご入会の申し込みおよび詳細は、美術館スタッフまでお尋ねください。

◎会員の種類・年会費

個人会員	1年	3、000円	（新規）
		2、700円	（入会継続）
	3年	7、000円	
法人会員	1年	30、000円	（新規）
		27、000円	（入会継続）
	3年	70、000円	

◎有効期限

・1年会員　平成19年4月1日～平成20年3月31日

・3年会員　平成19年4月1日～平成22年3月31日

編集後記

新年度を迎え、展覧会はもとよりワークショップや特別講演会などの各行事・イベントが一層充実しています。また『紀要・年報』創刊にちなんだ所蔵品についての美術講座を開催し、展覧会以外でも当館の美術工芸品について親しんでいただく機会が増えました。皆様のご来館・ご参加をお待ちいたしております。（宮尾）

〒700-0823　岡山市丸の内二-七-一五
財団法人 林原美術館
TEL　〇八六-二二三-一七二二
FAX　〇八六-二二六-三〇八九
http://www.hayashibara-museumofart.jp